

- ・コシヒカリ穂肥対応の考え方～1回目は時期と量を見きわめて、2回目は原則施用で後期栄養を確保
- ・基肥一発タイプでも、葉色の低下が大きい場合は、分施の2回目穂肥時期頃にチツソで1kg/10a程度を施用しましょう。(下表参照)

表4 肥料の種類及び施肥体系別穂肥施用のめやす(コシヒカリ)

施肥体系	肥料の種類	出穂前日数				
		30日前	25日前	18～15日前	10日前	3日前
分施	化学肥料	-	-	1回目	2回目	3回目 ★葉色32(葉色板3.9)以下の 場合のみN1.0kg
	有機質肥料					
	有機由来N:50%	-	1回目	2回目	3回目 ★葉色32(葉色板3.9)以下の 場合のみN1.0kg	-
	有機由来N:100%	1回目	-	2回目		-
基肥一発	化学肥料	-	追肥 ★葉色32(葉色板3.9)以下の 場合のみN1.0kg			
	有機質肥料					
	有機由来N:50%	-	追肥(有機由来N100%の肥料を使用) ★葉色34(葉色板4.2)以下の 場合のみN1.0kg			-
	有機由来N:100%	-				-

4. カメムシ類による斑点米防止対策の徹底を！

28年産米は高品質米が生産されましたが、早生品種を中心にカメムシ類による品質低下が問題となりました。新発田地域では、斑点米発生防止運動を展開し、被害防止に取り組んでいます。

①地域の一齐草刈りや、②水田内除草の徹底、③早生品種は出穂後の適期2回防除の実施などによりカメムシ被害を食い止めましょう。

【主要なカメムシ類】



アカスジカスミカメ



アカヒゲホソミドリカスミカメ



オオトゲシラホシカメムシ

5. いもち病の発生に注意！（本格的な梅雨時期を前に発生防止対応を万全に）

今後、本格的な梅雨時期を迎えると葉いもちの発生が懸念されます。特にいもち病に弱い「わたぼうし」や「新之助」については、予防防除を徹底しましょう。